

参加費無料



ちばこどもおうえんだん

こども・若者未来基金2021

# 助成報告会

お子様との参加可能

※託児はありません

日時 **2022年5月28日(土)**  
14:30~16:30

会場 **幕張メッセ 国際会議場 101号**

※会場での開催を予定しておりますが、感染状況によって変更の可能性があります。

定員 **60名**(先着順)

## プログラム

### ■ 基調講演

テーマ (仮題)

「現代の若者が抱える困難さと、その対応は？」

講師

野澤和弘さん

**野澤和弘さん** 植草学園大学副学長・教授  
毎日新聞客員編集委員

1983年毎日新聞入社。社会部でいじめ、引きこもり、児童虐待、障がい者虐待などを担当。現在は一般社団法人スローコミュニケーション代表、東京大学「障害者のリアルに迫るゼミ」主任講師。上智大非常勤講師など。

主な著書

「スローコミュニケーション～分かりやすい文章、わかちあう文化」「障害者のリアル×東大生のリアル」など。



### ■ 基金報告

### ■ 助成者からの報告

## お申し込み方法

参加をご希望の方は、右に記載されている二次元バーコードより参加申し込み申請フォームにアクセスし、必要事項を記入して送信してください。

参加受付 **5月10日から5月23日正午まで**

※申し込みのない方は参加できません。  
また、定員になり次第受付を終了します。ご了承ください。

このURLからでもアクセスできます↓  
<https://onl.bz/xrXYWmj>



## お問い合わせ

ご不明な点がございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。

**特定非営利活動法人ちばこどもおうえんだん** 【開所時間】月～金(祝日を除く) 10:00～16:00

〒263-0051 千葉市稲毛区園生町 1107-7

☎043-205-4046

✉chiba.kodomo\_ouendan@fuga.ocn.ne.jp

【HP】 <http://kodomo-ouendan.com/>

【twitter】 [https://twitter.com/kodomo\\_ouendan](https://twitter.com/kodomo_ouendan)

# 「こども・若者未来基金 2021」

## 寄付募集活動の報告

皆さまのご支援で運営している「こども・若者未来基金」は、2021年度、基金を始めてから計5回目となる助成給付が決定いたしました。あたたかいご支援に、心より御礼申し上げます。2021年度は28名、39件の子どもたちをおうえんすることができました。また、緊急支援「緊急サポートSOS」にて、3名にそれぞれ10万円を支給いたしました。2021年度の寄付額および給付決定状況については以下の表をご覧ください。

今回の寄付額  
**12,006,743円**  
※寄付額の15%は、基金の運営管理費として使用します。

メニュー	助成内容	件数	給付額合計
くらしスタート	1人暮らしを始めるにあたり必要な資金の援助	12	2,600,000円
くらしサポート	進学した子どもの月々の生活費の援助	7	4,860,000円
まなびサポート	大学等の入学金や授業料等の援助	15	2,700,000円
資格サポート	資格取得に必要な資金の援助	1	150,000円
入学金つなぎサポート	他の奨学金が支払われるまでの入学金等の仮払い	4	2,000,000円
	合計	39	12,310,000円

ご協力いただいた皆さま、本当にありがとうございます！

## 2021年度に集まった寄付による助成内容

「こども・若者未来基金 2021」で助成申請のあった子どもたちの声を一部お届けします。

2021年度は28名、39件の子どもたちをおうえんすることができました。

※子どもたちの状況により、変動があります。

### くらしスタート Tさん

4月から就職します。助成を受けて、職場の近くで住み、ひとり暮らしのための最低限の家財道具を用意することができました。社会人として成長できるよう頑張っていきます。

### くらしサポート Sさん

私のような児童養護施設出身者でも、親の経済的援助がなくても大学進学への機会は必ずあると頑張ってきました。その努力を今後の人生や社会で活かしたいと考えています。

### 資格サポート Hさん

アルバイトと奨学金で生計を立てながら大学を卒業し、4月から就職します。運転免許を取得でき、生活や仕事の幅も大きく広がります。身分証明書としても有効に活用でき、ありがたいです。

### まなびサポート Kさん

大学の入学納入資金が足りません。助成を受けることで、借入をせずに済みました。今後の学生生活における精神的負担が軽減され、勉学に励むことができます。